

村人の優しさに触れた MINUSCA 職員

在カメルーン日本国大使館

(中央アフリカ兼轄)

以下は国連中央アフリカ多面的統合安定化ミッション（MINUSCA）で勤務されていた山田悦子さんから伺ったお話です。

MINUSCA 東部事務所勤務時代、武装勢力と和平合意について話し合うため出張で何度も村まで武装勢力に会いに行ったことがあります。出張は地元の県知事を含む和平合意メンバーと一緒に、国連の平和維持部隊に護衛されながら、100 キロ先の武装勢力の村まで1日がかかりで行きます。村までは高速道路もなく、舗装された道路もなく、道なき道を平和維持部隊の装甲車と共に移動、でこぼこの道、大きな水たまりを何とか越えて進んでいました。

しかし、橋が壊れて、前に進むことが出来なくなったためその日はそこで野宿をすることを決めました。近くに村があったので、村人の集会広場を貸してもらいみんなで車中泊をしました。翌日、国連事務所の現地スタッフ、県知事に加え集会広場を提供してくれた村人も総出で橋を直し、何とか前に進めることができました。無事、武装勢力の待つ村で県知事と共に和平合意について話をすることが出来、村人の優しさに触れた出張を終えることが出来ました。

